



星の物理

ジェームス B. ケイラー著 磯部瑠三・平山智啓訳
日経サイエンス社 252 ページ 6500 円

読み物

お薦め度
☆☆☆☆☆

原題は Stars, その題名にふさわしい内容を持った良い本だと思います。

話の展開はオーソドックスなもので各章の副題を書くと、「星の伝説と空の成り立ち」、「天体観測の原理」、「星とはいったいどんなものでどこにあるのか」、「星の内部と外部で起こっていることと原子炉としての星」、「太陽と低質量の星の進化と年齢」、「高質量星の輝かしい一生とその死」、「星の誕生と宇宙の誕生」となっています。これらから、この本の内容とその雰囲気が伝わるでしょうか。特に著者の専門である星の末期の状態（とりわけ巨星から惑星状星雲にかけての進化の様子について）はかなり詳しく論じられています。後半部分では、個々の星にとどまらず銀河や超銀河団にまで話が及んでおり、この点は特筆すべき点だと思います。逆に星の生まれる部分についての記述は少し物足りなく感じられます。

話し方は、日本語が多少ぎくしゃくとしているものの、かなり専門的な内容まで式を使わずに易しく丁寧に解説していて好感が持てます。さらに、わかりやすい図やカラフルな写真が各ページに1つ以上載せてあり、とても美しい仕上がりになっています。図は、たとえば星の進化の章では HR 図を効果的にわかりやすく使っていますし、どの図もそのままスライドやポスターになりそうなものばかりです。写真も建造中のケック望遠鏡や、HST のデータなどかなり最新のもが使われています（但し天地が逆さまになっている写真もあります）。

と、かなりいい本だとは思いますが、この本の欠点は値段です。6500 円、カラーページがほと

んどなので高くなってしまふのは仕方ないのかも知れませんが、個人で買うには少し決断のいる値段ではないでしょうか（と、僕は思うし、僕の周りの人もそう言っています。ぼくの周りには貧乏人が多いのか?）。先日渋谷の旭屋書店をぶらぶらしていたら偶然にもこの本が陳列されているのを見つけました。ということは案外売れている本なのではないでしょうか。アマチュア天文家はお金持ちな人が多いのかなあ。

6500 円は高いと思いますが、確かに内容は充実していますし、仕上がりもすばらしいので、一読の価値はあると思います。是非こういう本は図書館で買っていただけないでしょうか。内容の程度から言って、大学の教養の図書館に最適なような気がします。天文に興味のある高校生でも読めなくはないので高校の図書室にも一冊。趣味として天文をやっている人にとっては載せられている写真がたまらないだろうから、公立の図書館にも一冊。こういった、内容はすばらしいけれど値段が高いという本が全国の図書館に入ればいいなあと思います。

伊藤洋一（東大理天文）